

# web3で変わる社会

## 変革センターが共催 「朝日教育会議」

# NEWS CIT

2022  
11.15  
ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部  
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼  
2丁目17番1号  
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<https://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行



### 伊藤センター長ら「分散型」に期待示す

千葉工業大学と朝日新聞社共催の「朝日教育会議2022」が10月23日、「web3がもたらす社会変革」をテーマに都内の会場に写真上とインターネットライブ配信で同時開催された。第1部では本学変革センターの伊藤穰一センター長が基調講演、「web3は、技術やガバナンスの面でまだ多くの課題を抱えているが、多くの可能性を秘めている」と強調、偽造や改ざんが難しいブロックチェーン技術を活用した分散型webの世界に定義されるweb3時代の推進に意欲を示した。

朝日教育会議は、朝日新聞が2019年から全国の大企業と共催している教育フォーラム。直面する社会的課題を議論し、大学から広く発信することを目的としている。この日は第1部に続いて、第2部で東京藝術大学准教授のスプツニ子！氏がデジタルアートの未来について講演。第3部では、伊藤センター長とスプツニ子！氏が参加してパネルディスカッションが行われた。進行は小林哲朝日新聞科学みらい部部長代理が務めた。

今年、伊藤センター長が「新しい資本主義」の文脈でweb3を語るなど、急速にweb3という単語が社会に浸透しつつある。ブロックチェーンほかの暗号技術を使い、決済などの取引を一本の鎖

### ニュースガイド

- 2面 fuRoと東大が触覚型特殊椅子を開発/産学懇談会
- 3面 EVの未来-デザイン2チームが受賞/未ロボの7人が受賞/橋本上席研究員がポスター賞
- 4面 空手道部が全日本理工系で6回目優勝、内閣総理大臣杯は3位/亀田研開発の海ごみマップが威力/田島研が古民家を改修
- 5面 小澤研、最優秀賞と敢闘賞/先川原室長と総工研が児童らにロボット教室/校友「今野充さん」
- 6面 スポーツ対面開催/寮球技大会も/寮で防災訓練/小学生2人に学長賞/入山光博氏が死去

化も可能になる」と説明した。また、自分が所有しているトークン、たとえばNFT(非代替性トークン)などもすべてフ

ロックチェーン上に記録されるので、改ざんや詐欺も防止できるという。web3については、国の規制のあり方についても議論されている。伊藤センター長は「本場に役に立つのかどうかというのは国民と政治家が議論しなくてはならない。その議論の後に国はルールを決めるべきで、役に立つかどうかはまずやってみなくては分からない」と語り、現段階で厳格なルールを決めてしまいうことがないよう警鐘を鳴らした。

### 伊藤センター長



### スプツニ子！氏



web3時代  
web1はブラウザ(閲覧ソフト)を使ってインターネットを利用した時代。今のweb2時代はSNSと呼ばれるソーシャルメディアの時代だが、デジタルやアップルなどのプラットフォームを経ることで、巨大ハイテク企業が個人情報や利益を独占する時代でもある。

次世代インターネットとされるweb3は、ブロックチェーン技術などにより「情報を個人が分散管理」し、巨大企業が情報を独占できなくなる時代とされる。



web3時代の技術を学生たちに説明する伊藤センター長

### 近未来技術を語る

#### 伊藤センター長・学生たちと

学部3・4年生と大学院生を対象に、変革センター・伊藤穰一センター長とのトークセッションが11月10日午後、津田沼校舎2号館3階大教室で開催された。

伊藤センター長の著書「テクノロジーが予測する未来」(SB新書発行)を読んでいることが参加条件だったが、近未来を変革する技術を肌で感じたい学生たちが多く参加し、活発な質問や議論が繰り返された。

学生たちは「有意義な時間だった。今後もこのような機会を望みます」「web3の可能性を改めて感じました。学科を超えたプロジェクトに期待します」などと意欲的な感想を寄せた。

表現の新しい  
キャンパスに  
スプツニ子！氏  
第2部で講演したスプツニ子！氏は冒頭、自身が制作した「ムーソウォーク」のNFTが昨年開催された日本初のNFTオークションで最高額で落札された体験などを紹介。「NFTは革命。web3の可能性に気づいた時は興奮して2日くらい眠れなかった」と語った。

その上で、これまで芸術品はモノとしての売買でしか価値が認められづらかったが、ブロックチェーン技術を使ったNFTによってデジタル作品が売買される時代になったと解説。「NFTはアーティストの新しいインフラであり表現の新しいキャンパスになる」と講演を締めくくった。

第3部のパネルディスカッションでは、伊藤センター長は「社会変革の流れと技術革新が同時に起こっているため、web3は非常に面白いタイ

「未来、私たち人類になくはない技術と考えられているweb3やメタバース、NFT(非代替性トークン)について「これらの技術と実際に共生していく学生たちと直接、ディスカッションする場が重要」と、楽しみにしていたという。

当日は伊藤センター長がミニ講義した後、参加学生たちとフリートークが展開された。

伊藤センター長の著書「テクノロジーが予測する未来」(SB新書発行)を読んでいることが参加条件だったが、近未来を変革する技術を肌で感じたい学生たちが多く参加し、活発な質問や議論が繰り返された。

学生たちは「有意義な時間だった。今後もこのような機会を望みます」「web3の可能性を改めて感じました。学科を超えたプロジェクトに期待します」などと意欲的な感想を寄せた。

# 産学懇談会に493社

## デジタル変革期 千葉工大生に期待

松井学長は冒頭のあいさつで、本学が今春の入学試験で13万9千人を超える志願者を集め、全国の大学の中で近畿大に次ぐ2位の志願者数だったことを報告。一方、卒業後の就職は2021年度、94・1%の就職率となった。卒業生2000人以上の実就職ランキングで全国3位となり、毎年高い就職率を維持し続けていることを報告し



本学志願者数などを報告する松井学長

「学生の目線に立ち、学生の身に寄り添い、来たるべき時代に技術革新を担えるよう、必要な実践力を学生が身につけることができるよう日々学内



名刺交換会に詰めかけた企業の人事・採用担当者たち

「学生が身につけることができるよう日々学内



名刺交換で熱心に質疑応答

「学生が身につけることができるよう日々学内

産学懇談会は、第一部・講演会、第二部・名刺交換会の2部構成で行われた。本学からは瀬戸熊修理理事長、松井孝典学長をはじめ、教職員らが総出で企業の人事・採用担当者らに対応した。

「人を笑わせ、そして考えさせる研究」に贈られるイグ・ノーベル賞「工学賞」を受賞したことを紹介した。そして、現在、社会が求めている工業人材とは「未開拓の分野に、新しいプロジェクトを考案し、それを設計し、作り上げることが出来る『アーキテクト』と呼ばれる人材だ」と強調。今年、本学が創立80周年を迎えたことを報告した上で、「世界文化に技術で貢献する」という建学の精神を羅針盤として「今後ともアーキテクト人材の育成に務め、社会に貢献していく」と語った。

「人を笑わせ、そして考えさせる研究」に贈られるイグ・ノーベル賞「工学賞」を受賞したことを紹介した。そして、現在、社会が求めている工業人材とは「未開拓の分野に、新しいプロジェクトを考案し、それを設計し、作り上げることが出来る『アーキテクト』と呼ばれる人材だ」と強調。今年、本学が創立80周年を迎えたことを報告した上で、「世界文化に技術で貢献する」という建学の精神を羅針盤として「今後ともアーキテクト人材の育成に務め、社会に貢献していく」と語った。

「人を笑わせ、そして考えさせる研究」に贈られるイグ・ノーベル賞「工学賞」を受賞したことを紹介した。そして、現在、社会が求めている工業人材とは「未開拓の分野に、新しいプロジェクトを考案し、それを設計し、作り上げることが出来る『アーキテクト』と呼ばれる人材だ」と強調。今年、本学が創立80周年を迎えたことを報告した上で、「世界文化に技術で貢献する」という建学の精神を羅針盤として「今後ともアーキテクト人材の育成に務め、社会に貢献していく」と語った。

「人を笑わせ、そして考えさせる研究」に贈られるイグ・ノーベル賞「工学賞」を受賞したことを紹介した。そして、現在、社会が求めている工業人材とは「未開拓の分野に、新しいプロジェクトを考案し、それを設計し、作り上げることが出来る『アーキテクト』と呼ばれる人材だ」と強調。今年、本学が創立80周年を迎えたことを報告した上で、「世界文化に技術で貢献する」という建学の精神を羅針盤として「今後ともアーキテクト人材の育成に務め、社会に貢献していく」と語った。



# 視聴でき「背中にも触感」

## 特殊椅子 fUROと東大が開発

未来ロボット技術研究センター（fURO）は、東京大・先端科学技術研究センターが開発した椅子型触覚提示実験装置「TosionTrows（トーションクラウズ）」を基に、軽量の展示用装置「Chairy（チェイリー）」を開発した。チェイリーは東京スカイツリータウンキャンパスの展示スペースで12月18日までの土日祝日に一般公開している。同時公開中の巨大スクリーン展示「打ち上げ花火をデザインする」を、チェイリーに座ることで視覚と聴覚に加えて触覚を通じて楽しむことができる。同下。

「人を笑わせ、そして考えさせる研究」に贈られるイグ・ノーベル賞「工学賞」を受賞したことを紹介した。そして、現在、社会が求めている工業人材とは「未開拓の分野に、新しいプロジェクトを考案し、それを設計し、作り上げることが出来る『アーキテクト』と呼ばれる人材だ」と強調。今年、本学が創立80周年を迎えたことを報告した上で、「世界文化に技術で貢献する」という建学の精神を羅針盤として「今後ともアーキテクト人材の育成に務め、社会に貢献していく」と語った。

「人を笑わせ、そして考えさせる研究」に贈られるイグ・ノーベル賞「工学賞」を受賞したことを紹介した。そして、現在、社会が求めている工業人材とは「未開拓の分野に、新しいプロジェクトを考案し、それを設計し、作り上げることが出来る『アーキテクト』と呼ばれる人材だ」と強調。今年、本学が創立80周年を迎えたことを報告した上で、「世界文化に技術で貢献する」という建学の精神を羅針盤として「今後ともアーキテクト人材の育成に務め、社会に貢献していく」と語った。

「人を笑わせ、そして考えさせる研究」に贈られるイグ・ノーベル賞「工学賞」を受賞したことを紹介した。そして、現在、社会が求めている工業人材とは「未開拓の分野に、新しいプロジェクトを考案し、それを設計し、作り上げることが出来る『アーキテクト』と呼ばれる人材だ」と強調。今年、本学が創立80周年を迎えたことを報告した上で、「世界文化に技術で貢献する」という建学の精神を羅針盤として「今後ともアーキテクト人材の育成に務め、社会に貢献していく」と語った。



「人を笑わせ、そして考えさせる研究」に贈られるイグ・ノーベル賞「工学賞」を受賞したことを紹介した。そして、現在、社会が求めている工業人材とは「未開拓の分野に、新しいプロジェクトを考案し、それを設計し、作り上げることが出来る『アーキテクト』と呼ばれる人材だ」と強調。今年、本学が創立80周年を迎えたことを報告した上で、「世界文化に技術で貢献する」という建学の精神を羅針盤として「今後ともアーキテクト人材の育成に務め、社会に貢献していく」と語った。

# EVの来 デザイン2チームが受賞

## 交流や学びを生むモビリティ

技術・情報分野が共創して「Society 5.0」の実現を目指す展示会GATEC2022（シートック10月17～21日、幕張メッセとオンライン併用で開催）の中で、「国際学生」社会的EV「デザインコンテスト2022」（電気自動車普及協会主催）が開かれた。

科学専攻修士2年・松崎 佑亮さん、同1年の声沢 健さん、伊藤尚子さん・高橋郁成さん「デザイン科学科4年の鈴木勇輝さん・丹後飛馬さん（佐藤弘喜研究室）の6人チーム「FLAT」が提案した「000R01」が、優秀賞にあたる審査員特別賞を受賞した。

チーム「FLAT」 「憩いの場を作るモビリティ000R01」

平均寿命が伸びて、退職後に孤独を感じる人の増加が予想される。地方移住への関心も高まっているが、移住先で孤独になることも。2つの孤独を解消するには、好きな場所を充実したセカンドライフを送ることが必要と考え、提案した。



「FLAT」チームの6人



「Costal」チームの4人

チーム「Costal」 「Mobility as a Service」の略（の新モデルになるのでは、と評価された。「受賞できて、大変うれしく思います。技術の進歩で人々の孤独化が進む中、モビリティで人々のつながりを生み出したいという私たちのメッセージを込めることができたのではないかと思います」（伊藤尚子さん）

企業がMaasの展開に悩む中、刺激を受ける内容、と称賛された。「賞をいただけて、大変うれしく思います。私たちは、ユーザーの立場になって物事を考えたり、イメージをカタチに落とし込む方法など、幅広くデザインを学んできました。各メンバーが異なる分野の強みを生かすことで、魅力的な提案ができたと思います。今年で大学院を卒業しますが、学び続けることを忘れないよう、励みたいと思います」（佐藤海斗さん）

# 未ロボ7人 知恵光る

## 技育展、全日本学生室内飛行ロボコン

未来ロボティクス学科の3組7人が受賞した。

「技育展2022」（8月23日～9月23日、オンライン開催）の「コミュニケーション部門」で、林原靖男教授の研究室の樋高聖人さん（未来ロボティクス専攻修11年）、女性エンジニア部門では桜井真希さん（未来ロボティクス学科3年）が優秀賞を獲得した。

日本航空宇宙学会、宇宙航空研究開発機構などが開催の自動操縦部門で、麻生英寿さん、小田匠馬さん、葛西峻摩さん、山口裕士さん、安田真梨さん（以上未来ロボティクス学科2年）ら5人チーム「人体ハック人間ロボ化計画」II写真上人間の筋肉組織をコン

「以前から個人的にさ

「初めは個人で不安でしたが、優秀賞を頂けて安

「受賞できて、大変うれしく思います」

飛行に耐えつる、墜落や衝突に強い機体と、USBポートなどを備えプログラムしやすい制御基板を開発した。飛行機の設定では他大学に太刀打ちできないと考え、基板設計やプログラミングなど千葉工大生の強みを生かし開発を進めたという。

「初めは個人で不安でしたが、優秀賞を頂けて安

「受賞できて、大変うれしく思います」

「受賞できて、大変うれしく思います」

「以前から個人的にさ

「初めは個人で不安でしたが、優秀賞を頂けて安

「受賞できて、大変うれしく思います」

「受賞できて、大変うれしく思います」

「受賞できて、大変うれしく思います」

「受賞できて、大変うれしく思います」

「受賞できて、大変うれしく思います」

「受賞できて、大変うれしく思います」

「受賞できて、大変うれしく思います」

「受賞できて、大変うれしく思います」

「以前から個人的にさ

「初めは個人で不安でしたが、優秀賞を頂けて安

「受賞できて、大変うれしく思います」

「受賞できて、大変うれしく思います」

「受賞できて、大変うれしく思います」

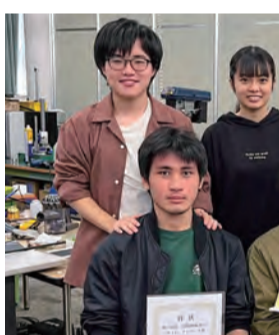
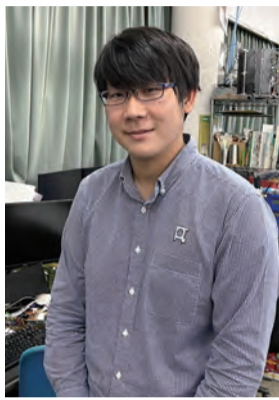
「受賞できて、大変うれしく思います」

「受賞できて、大変うれしく思います」

「受賞できて、大変うれしく思います」

「受賞できて、大変うれしく思います」

「受賞できて、大変うれしく思います」



# コード分析ツールを解説

## 橋本上席研究員 ポスター賞



情報処理学会のソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2022

発表し、インタラクティブ・ポスター賞を受賞した。

橋本上席研究員は「基礎的で地味なテーマなので、受賞は意外でした。今後は一層、応用に注力していきたい」と語っている。

「受賞できて、大変うれしく思います」

「受賞できて、大変うれしく思います」

「受賞できて、大変うれしく思います」

「受賞できて、大変うれしく思います」



# 小澤研、最優秀賞と敢闘賞

## マイクログラビティ講演で2人

日本マイクログラビティ応用学会・第34回學術講演会(9月14~16日、名古屋市瑞穂区の名古屋市立大・田辺通キャンパスで開催)の学生口頭発表で、下村健太さん(先端材料工学専攻修十一年、小澤俊平研究室)が最優秀賞を獲得。宇宙飛行士・毛利衛氏の毛利ポスターセッションでは美尾歩さん(同2年)が敢闘賞を受賞した。2人の発表内容と受賞の感想は次の通り。

### ● 下村 健太さん

#### 「雰囲気酸素分圧制御」

「ロボットと暮らす未来社会」を記念講演。furoの開発のロボットや、世界のロボット技術を動画で紹介した。

2足ロボットの格闘技・ROBO-ONEの映像に児童たちは声を上げて、接戦を繰り広げる様子に引き付け、ロボット同士の戦いに「すごい」と拍手が送られた。文化会総合工学研究会(総工研、稲葉健部長)未ロボ2年)の部員たち



児童たちにロボットの試合を見せ、操縦体験も(前原小で)

# 児童らに「ロボット教室」

## 総工研自作ロボが大活躍

創立丁46年を迎えた香取市立東大戸小学校で10月20日、記念式典が行われ、未来ロボット技術研究センター(furo)の先川原正浩室長が

も協力参加。ロボット同士の模擬試合を見せると、その迫力に「かっこいい」。その後、児童たちは学生たちの指導の下、ロボットのパンチでペットボトルを倒す操縦を体験した。

10月22日にも、前原小学校1~6年生と保護者ら約200人を津田沼キャンパス2号館3階大教室に招き、先川原室長の講演と総工研のロボット

未来社会に役に立ちそうな最新ロボット事情を動画で説明後、児童たちはステージのフィールドを取り囲み、学生たちが参の2足歩行ロボットが登場すると「わー」と歓声を上げた。

「ロボット操縦してみたい人」の声にハイ、ハイ!と声を張り上げアピール。抽選で各学年2人が操縦に挑んだ。倒れてもボタンを押すと起き上がる動作に驚き、保護者たちも拍手していた。



「ロボット操縦してみたい人」の声にハイ、ハイ!と声を張り上げアピール。抽選で各学年2人が操縦に挑んだ。倒れてもボタンを押すと起き上がる動作に驚き、保護者たちも拍手していた。



「受賞はとてもうれしいと同時に、身が引き締まる思い。熱心に指導いただいた小澤先生、栗林先生(附属研究所)に心から感謝します」

● 美尾 歩さん

「ジルカロイ融体の表面張力に及ぼす温度と酸素の影響」

「受賞できてとてもうれしいです。小澤先生やポスターの手助けをしてくれた先輩、同輩、実験に協力してくれた後輩に心から感謝します」

# 活躍する 校友

(株)日立ハイテク・コアテクノロジー&ソリューション事業統括本部事業戦略本部長 今野 充さん (53歳) (平成5年、工業化学科卒)

研究室に朝から晩まで、それどころか1週間ほど泊まり込んでという。やがて卒業の季節は終わり、OBの紹介で日立計測エンジニアリングへ入社したのは1993(平成5)年であった。父も日立製作所の発電所部門の元技師。つまり「日立2世」である。

そのころ茨城県ひたちなか地区には日立計測のほか、日立本体の計測器事業部や電頭・半導体検査機器メーカー「日立サイエンスシステムズ」といった関連会社が集まっていた。日立計測は今野さんの入社5年後に日立サイエ

クのかたまりである電頭の解像力は、光学顕微鏡を遙かにしのぐ。「産業材料のほとんどは観察、分析できます。最近では研究室に置いてある電頭を自宅からリモート操作できないかとの注文もある」という。

まさに技術は日進月歩。その最前線を紹介する4年に一度の第16回国際顕微鏡学会(札幌市、06年)の日立のブースをこぎつけた天皇、皇后両陛下(現・上皇ご夫妻)へ電頭をデモンストレーション。また探査機「はやぶさ」が小惑星イトカワから採取

# 「81点」を確実に 電頭の世界にはまる



「データとスピード」がモットーと今野さん

(10年)した粒子の分析チームに加わり、走査透視型電頭(STEM)などで粒子表面の宇宙風化を研究し、翌年に共同論文を発表している(英学術誌サイエンス)。

幅広い対外交流を買われたのか、14年に市場調査のマーケティング部門へ。さらに欧米営業部長のイスにも兼務あるいは専従として4年間座っている。むろん研究部門と縁を切った訳ではないが、「もっとも苦手なことを経験せよ」ということでしょうか。今野

「社風ですか? 日立は野武士集団といわれましたね。今野さんはサラリと言った。総合電機・電機メーカー国内トップの日立製作所を核とする日立グループに属して30年目の2022年4月、計測器・半導体製造装置事業「日立ハイテク」(本社・東京都港区)の機構改革で新設のコアテクノロジー&ソリューション事業統括本部の事業戦略本部長に就任し、忙しい日々を過ごす。近況を本誌でうかがった。

日立製作所の企業城下町、茨城県日立市で育った。無機や有機の化学が好きで工業化学科へ。サークル活動などは特段しなかったが、4年生のほぼ1年間、卒業研究(テーマ「無機材料の合成」)の実験で操作した電子顕微鏡(以下、電頭の世界にはまった。「ナノ(10億分の1)やピコ(1兆分の1)の微小世界をのぞくのは楽しい。人間の五感ではとらえられない姿があります。天体望遠鏡で星を観測するのと同じ」)

確かに科学の助けなしでは目の届かぬ領域だ。大学の研

究室に朝から晩まで、それどころか1週間ほど泊まり込んでという。やがて卒業の季節は終わり、OBの紹介で日立計測エンジニアリングへ入社したのは1993(平成5)年であった。父も日立製作所の発電所部門の元技師。つまり「日立2世」である。

苦手な英語に取り組みつつ、「毎月のようにドイツやアメリカへ出張した」。そして22年春、いまのポジションへ。分析装置・電頭製品の販路を各種業界のニーズや国内外27カ国・地域の実情に合わせていかに広げていくか。その戦略づくりが役目だ。「組織立ち上げ前の半年間は深夜に目覚めて構想を練ることもあった。すべてはこれからです」と正直だ。

「ストレス? のん気な性格なのであまりたまりません」と笑うものの、意見を自由に出し合える同僚たちとのピールで流す。それとジョギング。平日は出勤前の早朝、5キロくらいを約30分で走る。週末になれば、その倍の距離はいく。40代最後の記念に参加した第67回勝田全国マラソン(ひたちなか市など主催、19年)で3時間59分37秒と、初マラソンで4時間のカベを切った。なかなかの「章駄天」である。

むろん、それと関係ないが、モットーは「データとスピード」。何事も情報を集め、迅速に判断し、的確に進める。「100点を目指すより、ギリギリですが、Aライン」に入る81点を確実に取り続けられればよいと思っています。「肩の力を抜き、見る・測る・分析する」技術を生かした息の長い成長を考えているようだ。

# スポフェス 3年ぶり対面で

## 晴天に700人〓快汗〓



体育会主催の第58回スポフェスティバルが10月23日、西浜運動施設と新習志野キャンパスで開かれた。

全種目対面での実施は3年ぶり。晴天に恵まれ学生、教職員約700人が参加し、日ごらの運動不足を解消しようと気持ちのいい汗を流した。

種目は室内がバスケットボール、卓球、写真、下、バドミントンなど、屋外ではソフトボール、ドッチボール、ソフトテニス、フットサル、同上、ビーチバレーなど。

定着をみせたeスポーツ「大乱闘スマッシュブラザーズSPECIAL」も競技「Shadowverse」も競技種目として扱われ、会場にはゲーム好きな学生たちが集まった。

学生寮(岡垣昇汰・寮長)生命科学科3年)の球技大会が10月1日、新習志野キャンパス体育館とフットサルコートなどで対面開催された。藤本千廣さん(建築学科2年)を企画委員長に、テニスやバスケットボール、写真

# 寮の球技大会も 5種目に150人



上依里子さん(応用化学科4年)は「3年ぶりの開催で大変な面もありましたが、無事に終えることができました。支えてくれた仲間感謝しています。参加者の方々に楽しんでいただけただけようです、うれしい限りです」と話していた。



難を促す学生の姿が見られ、9時3分、火災発生放送後、同14分には寮の南側・野球場に避難完了〓写真左。

藤本さんは「企画委員と寮友会役員の全員で運営に取り組み、スムーズに進行できた。特に大きな怪我もなく大会を終え、運営に携わった役員、参加してくれた寮生たちに感謝したい」と語っていた。



大会前に防災訓練 学生寮では大会前の9時から9時半に、大規模地震で火災が発生したとの想定で防火防災・避難訓練が行われた。自発的に安全避

# 小学生2人に本学学長賞

## 船橋市募集の科学論文・工夫作品展

本学と連携協定を結ぶ船橋市が市内の小中学生に自由研究(理系)を募集した「第49回児童生徒科学論文・工夫作品展」は9月15日、本学の松澤秀則・応用化学科教授らが審査した結果、小学生2人の科学論文、工夫作品各1点が千葉工科大学賞に選ばれた。

「科学論文」「吸水ビーズのひみつ」2失われた吸水能力を取り戻せ!〓新谷紗彩さん(市立二和小4年)ア

りするのか、仮説を立て実験を繰り返して明らかにし、ビーズの吸水能力回復に成功した。遊びの中で芽生えた疑問に対し、緻密な実験計画を立てて一つ一つ検証し、原因を明らかにした。さらに吸水性能リマ

しいと認められた。工夫作品「ピンポン運ぶ君」〓金子史哉さん(市立中野木小4年)モーターを使ったロボットを作りたくて、ピンポン球をシャベルでくくって運ぶマシンを考え

にぶつかり、反動でシャベルが上がってピンポン球を荷台に跳ね上げる。歯車やカムなどの動力伝達機構を使わず、1つのモーターで回転と跳ね上げの2動作を行わせている。またピンポン球を跳ね上げる勢いや角度を試行錯誤してシャベルの形状を決め、ピンポン球がシャベルの下に潜り込まないようガードをつけるなど、工学的創意工夫が随所にみられ、学長賞にふさわしいとされた。

# 入山光博氏が死去



入山氏は1982(昭和57)年4月から本学に勤務。人事課、就職課、事務室)の入山光博氏が10月26日、急性心筋梗塞のため死去した。62歳。

# 同窓会



10年以上前になります。前職の上司のお誘いで本格的なキャンプを何度か経験させて頂き、子供たちにもいつかこの素晴らしい声を伝えたいと思っておりました。優秀だった研究室OBもよく家族でキャンプをしていたと聞き、今年の夏に一念

發起してキャンプ用品を一式買い揃え、家族で念願のテント泊に出かけました。しかし当然熱帯夜で寝苦しかったようで、しかも明け方に雷を伴う激しい雨が降り、しんどい初キャンプとなりました。「またキャンプ行きたい!」という声は皆無です。

ね。このままでは子供たちに「キャンプとは暑さ・寒さ・豪雨を耐え忍ぶ修行」という認識を刷り込んでしまします。南房総のあたりは冬でも比較的温暖なようですので、よいキャンプ場をご存じの方がいらっしゃいましたら、是非ともご教示をお願い致します。春まで待つ方がよいですかね……?

プロジェクトマネジ  
メント学科  
田隈 広紀

# 四季雑感



十一月三日の秋晴れの空の下で開催された一睦沢町農林商工祭り」に磯野研・鎌田研(都市環境工学科)は、ゼミ活動の一環として参加してきました。二研究室は今睦沢町のまちづくりに関わっており、三年ぶりに開催したこの祭りで「景観やまちづくりについて、住民

の方の意見を聞いてみたい!」と、アンケート調査を行ったのだ。本趣旨は調査だが、地元の特産品が並ぶ様子や飲食店が出す屋台から漂ってくる美味しそうな香り、ステーションでのパフォームの熱量等が五感を刺激してくる。やはり祭りの雰囲気に触れると気持ちも高揚してくるものだ。特産品をお土産に買う学生もいて、休憩時間には色々と秋の爽りを楽しんだようだった。

磯野 綾

# 編集だより



1977年7月開業以来、津田沼駅前立地する商業施設として営業してきた津田沼パルコの閉店がとうとう来年2月末と迫ってきた。本学に勤めてからというものの、私にとって津田沼は程よい都会で、ショッピングの際には、駅前

にある津田沼パルコに随分とお世話になったものだ。もちろん、現在に至っても、自身の好きな雑貨ブランドがあるため、閉店以後利用できなくなるのが残念でならない。この津田沼パルコの壁面を利用し、津田沼の過去、現在、未来を投影する「津田沼プロジェクト」が12月2、3日に開催される。

入試広報部  
大橋 慶子